

カヌーで 美しい日本の川を 旅する

幼い頃、よく川で遊んでいました。故郷では、川で遊んでいる子供たちは川ガキと呼ばれ、地元、福岡の久留米に流れる筑後川やその支流に棲む生き物たちをひっ捕まえては、いじり回し、夕暮まで遊んでいました。魚釣りをしたり、潜って銚で突いて、鯉、鮒、鰻、鯰、カマツカ、イダ(ウグイ)、オイカワ、カワムツ、テナガエビを魚籠からはみ出さんばかりに持って帰ると、晩酌の肴になるので父親が喜んで料理をしてくれました。鯉のあらい、鮒のあらい、蒲焼き、甘露煮、最後に鯉コクにして食卓に出してきました。

日頃は穏やかで透き通った筑後川も、毎年、雨期になると暴れ川に豹

変し氾濫していました。そんな時は、家に居るとそわそわしてたまらないのです。雨が上がるや否や、網を持って、自転車に飛び乗り、川ガキ仲間と河原へ一目散。土堤の上に迫るところまで水が上がり、その轟々と唸るような濁流の様相は、後ずさりするほどの大自然の驚異でした。やがて水が引いていくと、スーっと泳いでいる魚たちの背びれが見えるのです。仲間達と競うように駆け出して、河岸の草っ原の浅瀬に身を寄せている魚を捕るのです。時間を忘れ、お腹が空くまで遊んでいた少年時代の身近な楽しみでした。

その後、青年になるとバイクに乗っ

たり、バンドをやったりで、しばらく川から遠ざかっていました。社会に出てITの仕事に就くと仕事が面白く、寝食を忘れるほど夢中になってシステム開発に没頭していきました。そんな20代の後半に書店でふと手に取ったアウトドア雑誌 BE-PAL に連載されている野田知佑氏の「のんびり行こうぜ」で清流四万十川をカヌーで下っている光景にくぎ付けになりました。何と美しい川だ!! 鰻にテナガエビにヨシノボリ!! その瞬間に無邪気に川で遊んでいた時のワクワクする少年の心が私の中に戻ってきたのです。

野田知佑著「日本の川を旅する」を購読。川で遊ぶのにカヌーは最高の移動手段だと思い、さっそく福岡に唯一あったカヌーショップで購入しました。日本中の美しい川をカヌーで下りながら、水面からわずか50cmほどの日常では見られない視点から自然の景色を楽しんだり、魚釣りをしたり、魚がいそうな深い淵があるとシュノーケルで潜ったりして遊ぶようになりました。子供の時と同じようなワクワクする気持ちで、薄暗い早朝から川遊びセットを車に放り込んで、人混みや喧騒から離れて川に行き、カヌーを浮かべると、心地よい速さで滑るように、静かに川面を流れていきます。目の前に魚が跳ねて波紋が広がり静寂の



中に生命を感じます。カヌーが近づくと驚いて小柄な水鳥のカイツブリは水中に潜り、数メートル先の方の水面にひょっこり出てきます。陽が昇り明るくなってくると小鳥たちの囀りが聴こえてきます。にわかに真っ青な空が現れ、お昼になると主役が代わり、カヌーで下っている私の頭上、遙か天高くの何処に居るのか雲雀が鳴きながらホバリングしています。目の前の景色は自然の大パノラマとなるのです。やがて強い陽が射してくるとカヌーの影が川底に移り、川底の石が後ろに飛んでいくように見えます。まるで宙に浮いて移動しているような感覚になります。

私たちのIT関連の仕事は納期が迫ってくると、しばしば深夜まで仕事が続いていましたが、そんな時でも、

カヌーで川を下っている様子を思い浮かべただけで気分は爽快です。川遊びが私のライフワークバランスをうまく保ってくれるようになったと思います。野田さんは私を川に戻してくれた川の師匠です。野田さんの著書はすべて購読しましたが、それに飽き足らずに川とタイトルがつく本を読み続けていましたら200冊ほどになりました。

私が経営者となった正月明けの始業日の朝、電車に一本乗り遅れてしまい博多駅で出社を急いでいた時です。野田さんらしき方とすれ違いました。17年ほどの野田さんの読者ファンでしたが、世界中の川をカヌーで旅をされていることを知っていたので、こんなところに居るはずがないと思いましたが、もし本人だったらこんな偶然はないし、声を掛けなかったら一生後



株式会社 福岡情報ビジネスセンター
代表取締役社長

武藤 元美氏

プロフィール

- 1961年 生まれ
- 1984年 福岡大学人文学部卒業
株式会社 FCCテクノ入社
- 2006年 株式会社 福岡情報ビジネスセンター
代表取締役就任
- 2011年 盛和塾稲盛経営者賞受賞
福岡大学非常勤講師就任
ユーオス・グループ(300社) 理事長就任
九州IBMユーザー研究会(110社) 会長就任
- 2014年 盛和塾代表世話人 就任
全国IBMユーザー研究会連合会(1,800社) 副会長就任
- 2016年 NPO法人スペシャル・オリンピックス日本・福岡 副理事長就任
DevOps推進協議会 発起人理事就任

株式会社 福岡情報ビジネスセンター

所在地: 福岡市博多区博多駅前3-26-29
設立: 1998年
資本金: 5,000万円
事業内容: SI Service Mobile Innovation Open Innovation DevOps
Logistics Solution Cloud Service Security Cognitive WebTV
URL: <http://www.fbicenter.co.jp>



悔すると瞬時に考えました。既に通勤時間帯の人ごみに埋もれつつある後ろ姿を焦る気持ちで見つけて、駅のコルコースに響くほどの大きさで声をかけたのです。「野田さん!!」果たしてその方は野田さんなのか!? 人違いだったらどうしよう... 「野田さんですか!?!」「はい、野田です」「武藤と言います!! 17年来の読者ファンです!! 写真一緒に撮ってください!!」「ああ、いいよ」と本の中でしか知らなかった野田さんと会話をして、握手をすることができたのです。夢のような仕事始めの日となりました。

その年に、私たちのカヌークラブ「シネシネ団(別名:白波探検隊)」は野田さんと連絡を取って、一緒に熊本菊池川を下りました。次の年には、筑後川と一緒に下りキャンプをすることになりました。世界中の川をカヌーで旅をする憧れのアウトドアマン野田さんと川にカヌーを並べて旅しキャンプ。夜は、満天の星空の下で焚き火を囲んで、野田さんが吹くハーモニカを聴き、心地よい気分で焼酎(白波)のお湯割りを呑みながら世界中の川談義をする。人生で最高のひと時となりました。

それから、しばらくすると野田さんから電話がかかってきました。「ハハハ



ハッ、この前のキャンプのことを思い出しながら原稿を書いていたら、愉快になって電話したんだよ。あなたたちは本当に面白いカヌー隊だ。また一緒にやろうよ」そのときのことがBE-PAL誌に掲載、更に「新・日本の川を旅する」の筑後川編に掲載されたのです。少年の頃に遊んだ筑後川と愛読書だった野田さんの著書「日本の川を旅する」が25年の時を超えて奇跡のように繋がったのです。

それから毎年、野田さんとカヌー&キャンプをやるようになりました。

地元の福岡の筑後川、矢部川、熊本の球磨川、川辺川、宮崎の北川、小川、鹿児島島の川内川、九州を出て山口の錦川、北海道の釧路川、四国の四万十川、仁淀川、日和佐川と日本の美しい川をカヌーで下りながら、魚を追いかけて、河原でキャンプをしてのんびりと過ごす。暑い夏になると清流では、テーブルごと筏を川に沈めて、涼みながらソーメンを食べる。これが本当のそうめん流

しである。筏からはみ出た自分より長い麺を小魚が咥えてリボン体操のようにくるくると回しながら泳いでいく。年に数回の川遊びをやることで、毎日のように全国へ出張している激務の疲れが一瞬で癒されリセットされるのです。

ある時、野田さんがこう言ってくれました。「武藤さんはラッキーだな。僕は世界中を旅しているから、僕に会いたいと思っている多くの人は、数年くらいはなかなか会えない。それが、いつも君から連絡があるとタイミングよく近くに居るんだからねえ。ハハハハッ」強い思はずご縁を運んでくのだと思いました。昨年の春に、関東の転覆隊と満腹隊と合同で企画をし、野田さんを囲んで、宮崎の川で2泊3日のカヌー&キャンプをしました。年末には、野田さんをお招きして鹿児島島の川内川でシネシネ団の忘年会を満喫しました。

先日、野田師匠から連絡がありました。「野田です。元気にしてる? そろそろやろうよ」今年は野田師匠と何処の美しい日本の川を旅しようかと、川ガキならぬ川オヤジは春が来るのを待ち遠しく思い、遠足の前日の少年のように心が逸っています。

